



デンマークの 食と暮らし研究会

NEWS LETTER NEW YEAR 2023

発行：NPO法人デンマークの食と暮らし研究所 〒100-0006 東京都千代田区有楽町1-7-1 有楽町電気ビル南館12F
Tel 03-3213-4801 Fax 03-3213-5406 ホームページ : <http://www.danishforum.jp/> メール：info@danishforum.jp

《デンマークが取り組む高齢者福祉》



高齢者センターのリビングルーム

先進国にとって少子高齢化は大きな課題で、デンマークもその例外ではありません。実際、人口ピラミッドでは、0-14歳の少年期割合を65歳以上の高齢期割合が上回る統計数値が出ています。さらに、2045年には高齢期割合は24.6%に達し少年期人口の二倍になるとの専門家による予想数値もあります。今回は、高福祉国家、高齢者福祉モデルのひとつとして注目されるデンマークの高齢者福祉の取り組みをご紹介します。

デンマークの介護原則の起源は40年ほど前に定められた高齢者福祉三原則であり、今この基本的な考え方は、世界中で認知されています。それは、【自己決定】【生活の継続性】【自己能力の活用】というものです。一人一人の高齢者が尊厳を保ちつつ質を落とすことのない生活理念が示されています。【自己能力の活用】とは、高齢者の方の出来る力を生かして、システムが直接に手を貸すのではなく背中に手を回して見守るという考え方です。高齢者と言っても自立した生活ができる方、支援を必要とする方、介護を必要とする方と様々ですが、デンマークでの基本理念はホーム等の集合施設だけではなく、出来るだけそれまで住んでいた自宅で暮らし続けてゆこうとするものです。

高齢者問題を多角的に検討する際に老年学という研究があります。1903年ロシアの学者が提唱したGerontologyという言葉が起源のようです。デンマークでは1986年に高齢者問題全国連盟という高齢者組織が発足され、1989年には老年学協会によって研究所が設立されました。老年学、高齢者社会に関する研究・調査が幅広く行われています。その研究・調査結果は出版などの方法で人々に広く認知されるような様々な工夫が行われています。その一端として、EGV基金(孤独な高齢者を守る基金)が出版した『孤独な高齢者』という刊行書があります。2017年9月のNewsletterでもご紹介しておりますのでご興味があれば一度目を通して頂ければと思います。この本の中では25人の高齢者の方々の様々なケースを紹介しながら、高齢者を統計的に一括りにするのではなく、個々人が尊厳される社会とはどうあるべきかの考察がなされています。2019年New white paper(白書)INNOVATION BETTER LIFE(より良い生活のための革新)が発表・発信されました。将来を見据えてのhealth careについての方針を示唆した白書ですが、高齢者の福祉、QOL(生活の質)の基本指針がわかりやすく表明されています。この課題の克服はどの国にとっても容易ではありませんが、一歩先行く高齢者社会デンマークの試みは、日本にとっても参考になることと思われれます。(T.S)



高齢者センター 夫婦一緒の部屋



共同管理しながら暮らす高齢者住宅

《デンマークの家族の多様性》 37種類の家族様態

経済、社会状況の分析に必要な統計数字ですが、数字からはなかなか見えにくい実態がある場合があります。例えば、デンマークの家族形態です。37種類になるとの事です。公表されているStatistics Denmark (デンマークの統計)の人口、世帯別割合、家族構成などからは、単身世帯が一番多く、次に二人世帯。核家族が中心であることなどは容易に想像が出来ますが、37種類に分別される多様性が受容されている社会であることは、統計数字を見るだけでは、判然としない面があるかもしれません。デンマークは、1989年同性婚を世界で最初に合法化した国で、異性婚と同様の婚姻上の権利が認められています。また、デンマークでは、結婚は家族を作るスタートではないとの考えもあります。離婚率も高めです。(以前のnewsletterでも取り上げていますように)子供のいるカップルが離婚した場合、その後の家族構成は、より多様化します。Statistics Denmarkでは、単身の男女それぞれの(ひとり親の)子供の数も公表しています。仕事と育児を単身でこなす人も多く、特別な事ではないからです。少子化問題の原因のひとつに、核家族やひとり親で働く親にとって、社会として育児環境が不十分であると、とりあげられる事がありますが、デンマークでは乳幼児託児所、デイケアセンターなど子供の年齢に対応して保育サービスシステムが整えられています。



核家族であることが主流となった現代の先進国では、三世帯が同居するような家族は稀になってきています。様々な事情から多様な家族が構築され、行政施策上37種類にも分類されているデンマークの社会は、多様性を受容する幸せの国であろうとするひとつの試みの姿であるのかもしれません。(T.S)

『今年の言葉2022』

デンマーク語審議会とラジオP1が選ぶ今年の言葉2022年が昨年12月に発表されました。その年の世相を反映すると言われるその言葉は、【kyiv】でした。デンマークのメディアでウクライナの首都の表記をウクライナ語に改めたことがデンマークの人々の意思表明ともなり、ロシアの侵攻以降2022年を通してウクライナへの支持と敬意を示す象徴となりました。11の候補 (inflation など)から選ばれました。

blood ball, inflation,
electricity prices, elskam,
energy crisis,
copenhagen salon,
magtfuldkommen(-hed),
migrant woker,
save time,
sportswashing.

その他候補に挙がった言葉(一部英訳)

☆カレンダープレゼント☆

毎年ご好評頂いております

『デンマーク農業理事会3連カレンダー2023年版』を
先着5名様にプレゼントいたします。

応募宛先

ご希望の方は、

件名に《カレンダープレゼント応募》と入力し、
本文に貴社名・氏名・住所・電話番号をご記入の上、
下記メールアドレスまでご応募下さい。

メールアドレス:info@danishforum.jp

当選発表は賞品の発送をもって代えさせていただきます。

デンマークポークアカデミー2023開催のお知らせ

4年ぶりに開催する運びとなりました。募集要項は
2月中旬頃に皆様のお手元にお届け出来るよう準備
をしています。

研修期間:2023年5月14日(日)日本発

～5月26日(金)日本着

募集定員:15名

研修費用:30万円(予定)

※このアカデミーは日本国内の食品企業において、
豚肉関連の業務に従事し、その企業の推薦を受けた
方を対象にしております。

Sustainability勉強会の開催時期について

既報3月9日に開催予定としておりましたデンマーク
ポークのsustainabilityに関する勉強会の開催は
4月以降に実施することとなりました。

NPO法人理事長交代のお知らせ

季刊ニュースレターをお届けしておりますNPO法人
デンマーク食と暮らし研究所では、2023年2月
1日より理事長が交代します。これまで理事長で
あった小野澤鉄彦に代わり富樫浩之が新理事長
に就任します。今後ともご支援ご協力をいただき
ますようお願い申し上げます。

編集後記

年の初めには、多くの方が除災招福を祈願した事と思いま
す。さて、来たる節分にはどのような鬼退治をされますか？
昨年デンマークでは、銀行強盗がゼロでした。キャッシュレ
ス化の促進により銀行が保有する現金が減少している事
が要因のひとつと言われています。デジタル先進国らしい
鬼退治です。皆様におかれましてもより多くの福は内で春
をお迎えください。(T.S)